

第2回「駅ホーム縁端部視認性向上のためのWG」議事概要

○日 時：平成29年10月3日（金）10:00～12:00

○場 所：経済産業省別館2階各省庁共用235会議室

○出席者：別紙参照

1. 議事概要

○調査結果（中間報告）と実験計画案の説明等

- ・事務局より、議事次第に沿って、実施中の調査の中間報告がされた後、今後の評価実験の計画案について議論がされた。

○委員からの主な意見

【駅ホームからの転落等の経験をもつ視覚障害者に関する調査（中間報告）に関して】

- ・ホーム縁端部の視認性確保は、元々、転落を完全に防ぐための対策ではなく、比較的安価で視機能のある方に対して何割かの転落防止効果を持つことが期待された対策である。一定数の「転落等が防げたと思う」という回答は、それと相応した結果と言える。
- ・「混雑時は見るできない」など、効果を発揮するには条件が付くが、混雑しない駅でも、広範囲に導入できる対策ともいえる。
- ・弱視者の中でも、色がわかりにくい人が多いことは、方式を選ぶ上でも重要である。
- ・転落等の経験者には網膜色素変性症の方が多い。転落等には視野、特に下方の視野が欠けていると危険性が高まると思われる。

【駅ホーム縁端部視認性向上策に関する実態調査（中間報告）に関して】

- ・視認性向上策導入時に弱視者に配慮した対策もあるが、多様な見え方まで調べ、その転落防止効果を念頭に、デザインを決定したわけではないように見える。
- ・本WGの目的は弱視者の見え方も考慮してデザインを決める知見を得ることである。

【駅ホーム縁端部視認性向上策の有効性等に関する調査（中間報告）に関して】

- ・転落のしやすさは、視力、視野、色覚などの単一の軸だけではなく、総合的な評価でみる必要があり、そのうえでリスクを最小化する方策を見つける必要がある。

【駅ホーム縁端部視認性向上策の視認性に関する検討に関して】

- ・輝度コントラストに着目して第一実験を行うことで、大よその視認性を把握できると思われるが、誤認の可能性については、色味も含めた第二実験の実施が必要と考えられる。
- ・誤認については、その有無だけでなく、転落等危険に繋がる誤認か危険度の低い誤認かにより結果の危険性が違ってくるため、結果を踏まえた対策整理が重要である。
- ・第二実験では、ホーム縁端警告ブロックも視野に入る状況を作る必要がある。また、視覚障害者の転落等の経験に関する調査結果を踏まえ、被験者はホームのどの方向から見るのか、立ち位置などの条件設定も検討が必要である。
- ・メンテナンスにおける汚れや剥がれなどの点も重要である。

2. まとめと今後の取組みについて

第一評価実験では輝度コントラストに着目して実施するなど、実験の方向性が了承された。引き続き、各委員からの意見を踏まえて詳細計画を立案し、委員の意見を伺ったうえで実施する。また第二回評価実験は、委員への第一回結果報告と併行して計画を立案する。